

◆「忘れてないよ」と伝えたい



コープこうべ
組合員 末吉 繁美さん

震災から1年を経ても復興はまだまだですよ。何かできればと思って「地区交流先遣隊」の取り組みから参加しています。「被災地のことは忘れていませんよ。忘れませんよ」という気持ちが伝わればいいなと思います。

◆他人ごとではないから



コープこうべ
組合員 山本 康夫さん

私自身が父を阪神・淡路大震災で亡くしています。今回の東北の被災もとても他人ごととは思いませんでした。

何ができるかを考えてきましたが、こういう機会でお役に立てればと思って、参加しました。

みやぎに絵手紙を贈るプロジェクトが始動

コープこうべ大阪北地区では、みやぎ生協県北ボランティアセンター(気仙沼市・南三陸町)と連携して「“みやぎ”とつながろう! プロジェクト」を立ち上げ、2月27日に大阪府豊中市で絵手紙やメッセージカード作りを行いました。これは、こうべの組合員と被災地の皆さんがボランティアセンターを介して絵手紙のやりとりをするプロジェクトです。

コープこうべ大阪北地区本部組織統括の中秀俊さんは、「去年の『地区交流先遣隊』(本誌6号参照)や1月17日の震災イベントなど既に活動していましたが、今回のプロジェクトは、新たなキックオフとなります。今日も平日の昼間にもかかわらず、40人を超える組合員さんが参加してくださり、『被災地のことを忘れない』という皆さんの強い気持ちがうかがえます」と笑顔を見せていました。(左欄にて関連記事掲載)



プロジェクト立ち上げに尽力した矢田部佳子理事からあいさつがあった。



メッセージにかぶとをそえたりと、色鮮やかな絵手紙が作られた。

厳寒と強風にも負けず、支援活動実施



強風や雪にも負けず、ボランティアを行なうコープしがの役職員。



試験的に水揚げされたカキをむく生産者。今年のカキは、出来がいいという。

2月17日、コープしがの「ボランティアバス南三陸町支援隊」がバスで宮城県南三陸町に向かいました。20日までの日程で、18日には宮城県漁協志津川支所にてカキの生産再開の準備であるイカダ作りを手伝いました。ボランティアとして参加したコープしが専務理事の白石一夫氏は「私たちは宮城県内に産直産地を持っていませんでしたが、みやぎ生協さんに相談したところ、この志津川支所を紹介していただきました」と説明していました。

この日は作業で使う石が凍りつくほどの厳しい寒さでしたが、ボランティアは黙々と作業を行っていました。参加した南草津センターの森下琢也さんは『「カキが商品になったら買ってください』と、心を込めたお勧めが組合員さんにできると思います。この経験を職場の仲間にも広めたいです』と話していました。

【一言メッセージ】

- ・ 生協をどんどん利用することで、生協ができる支援活動も広がっていくと思います。(福島・Iさん)
- ・ また地震が起きたら、と考えると、怖くて、今年はおひなさまを飾れませんでした。(宮城・Wさん)